

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100739		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム矢野目1		
所在地	福島県福島市南矢野目字上戸ノ内7-3		
自己評価作成日	令和7年1月15日	評価結果市町村受理日	令和7年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和7年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里の三人行事として、敬老会・誕生日会・クリスマス会があり入居者様に特別な一日として楽しんで頂けるよう会社全体として本社と各事業所が協力し合って計画し実践しています。また、誕生日会にはご家族を招待し、またはご自宅へお連れしご家族様と過ごしていただき心に残る一日を過ごしていただいております。

日常生活の中でもバーベキューや新米祭り、夏祭りなど、少しでも入居者様と職員が笑顔で楽しく過ごせるように日々努力しております。

毎日の日課としては入居者様に参加していただきラジオ体操やリハビリ体操そして皆様の大好きな歌のレクリエーションを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 入居時に重度化や終末期の指針に基づき説明し同意を得た後、利用者の状態の変化に応じ家族と話し合いを行い、その都度、丁寧に意向の確認を行っている。主治医の看取り期の診断後に、家族と話し合い、意向に従い看取りを行っている。職員の看取りに対する意識が高く、できる限り時間を設けて利用者へ寄り添い最期まで安心して生活できるよう支援している。

2. 利用者の希望を聞いて職員が献立を作り、近くのスーパーから食材を購入し、毎食、手作りの料理を提供している。利用者は野菜の下処理や食器洗い、テーブル拭きなどを行い、職員と一緒にできる範囲で食事作りに参加している。法人は行事を大切にしており、三人行事の誕生日会・敬老会・クリスマス会には地域の方や家族を招待し、一緒に料理を楽しむ取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「お客様に対して誠心誠意のケアに努め地域の方とのふれあいを通じお客様の満足と信頼を得る」を毎月会議の時に全員で唱和している。	法人の理念をそのまま事業所の理念として、事務所前の廊下に掲示して周知を図っている。また、毎月の全体会議とユニット会議で理念を唱和して浸透を図っている。毎年、理念に基づき法人全体のスローガンと事業所の各ユニットで目標を立て、年末に振り返りを行い理念を実践に繋げている。	理念は、事業所が目指すサービスのあり方を示すものであることから、法人の理念をそのままではなく、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を事業所で検討し、独自に作り上げることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括の方と一緒に地域の方に向けての認知症カフェを開催し取り組んでいる。また、ホームの前を通られる方には挨拶をかかさずに行っている。	町内会に加入し、回覧板の受け渡しを行い管理者は総会に出席している。昨年から再開した町内の祭りや芋煮会に利用者とともに参加し、また、近所の家に依頼して庭で花見をさせてもらっている。事業所の玄関前に置いたベンチが住民の休憩場所や利用者や住民との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の方と一緒に地域の方に向けての認知症カフェを開催し取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	メンバーから花見の場所を聞き参考に行事に活かしている。	コロナ禍以降、書面開催としていたが、昨年3月から対面で2か月に1回、運営推進会議を開催している。委員から様々な意見が出されており、地域の情報を得て散歩コースや外出先の選定に活かしている。また、利用者に関する困難事例では委員のアドバイスを受け市へ相談するなど出された意見を運営等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課の担当者にサービス計画書を提出に行く時に現在の状態も含めて報告している。	法人の方針で事故報告書は直接持参し、市の担当職員を訪問して指導を受けている。また、新規入居者の介護認定調書と医師の意見書の受領のため市を訪問し、併せて事業所の状況を説明している。利用者に関する困難事例について相談した結果、市の担当者が関係機関に働きかけ解決が図られるなど連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束委員会を設け毎月不適切ケアチェックを行い予防に努めている。また、職員の行動を再確認している。	毎月、虐待も含めた不適切ケアチェックを職員全員に実施し、集計したものをユニット会議で話し合っけて防止に努めている。また、管理者・主任・ケアマネ・各ユニットの代表職員で構成する身体拘束適正化委員会を開催し、ヒヤリハットの内容やチェックリストの集計結果について話し合っている。年2回、研修を実施し防止に努めている。	身体拘束に関する指針に、委員会の構成員や開催の頻度、対応手順など、具体的な体制について明記されることが望まれる。また、委員会の議事録がないため、会議の内容を記録して、職員へ回覧するなど周知を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月不適切ケアチェックを行い予防に努めている。また全体会議の中でヒヤリハットで社長、部長から指摘され再度内容について話し合いを持ち理解を深めている。	身体拘束同様に、毎月記名式で不適切ケアチェックを実施し、集計結果をもとにユニット会議で話し合うことで虐待の防止に努めている。また自己チェックの内容を見て個別指導に活かしている。年2回、研修を実施して職員への浸透を図っている。	虐待防止に関する指針に担当者の規定がないなど虐待対応における体制の明記が望まれる。また、委員会の議事録がないため、委員会開催の議事録を作成し職員へ周知することが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用されている方がいるので相談をしながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を取りご家族様の疑問や不安を取り除く努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に頂いたご意見や要望を確認し反映できるものは活かしている。	日常の会話を通して利用者の意見を把握し、報告を受けた管理者は主任と協議して対応している。会話ができない利用者は、元気な頃に話した内容や家族の情報から推測している。家族の意見は、面会時に何うようにしている。また、電話やメールで意見を伺い、運営等に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を常に行い不安なく仕事ができるように風通しよい環境に努めている。また職員が意見を話しやすい関係づくりに努力している。	ユニット会議のなかで職員の意見を聞いている。全体会議には法人代表が出席しているため、直接、意見を伝える機会になっている。管理者は年2回個別面談を実施し、意見や悩みの把握に努め、出された意見は運営や業務の見直しに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週休三日制度を導入し仕事と休日のメリハリをつけ働きやすい環境作りに努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に社長講話を行い入社して3ヶ月以内の職員、中途入職の職員にも定期的に研修を行っている。	法人において職員の勤務期間に応じた様々な研修の機会を設けて職員を育成している。新人職員には先輩職員がついてOJTを行い、介護技術の習得を図っている。法人で費用負担を行ったり勤務を考慮して職員の資格取得を推奨している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、北信西定例会に参加し地域の課題等について話し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調の時に本人様と十分な時間を取り困っていることなどを聞き出し不安な気持ちが取り除ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の時にご家族様と十分な時間を取り困っていることなどを聞き出し相談しながらサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調の時に本人、ご家族様の要望を聞きその要望が叶えられるようなサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と一緒に洗濯物たたみや新聞たたみを行いできていることの継続に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や誕生日会に参加して頂いている。病院受診はご家族様に協力頂いている。面会時には状態の説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 み	コロナ禍で面会も控えていたので家族、親戚以外の人との交流が少なくなっている。	家族の面会は、マスク着用と体温測定条件以外はコロナ禍以前と同様に制限を設けず、居室で実施している。知人友人との面会も家族同様に行っている。また、家族の協力を得て外食や買い物も支援している。毎月1回、居室担当者が写真と生活状況を伝える手紙を家族に送って関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌レク、体操等を輪になり毎日行っている。また、将棋好きな人同士集まり楽しんで頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年経ってからご家族様から連絡があり必要な書類等を手渡し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに取り入れ職員全員で情報共有を行い実践している。	日頃の触れ合いや会話から利用者の意向や思いの把握に努めている。会話が困難な利用者の意向や思いは、表情や仕草から汲み取るようにしている。目で訴える利用者もおり、何をしたいのか職員間で話し合い、家族に確認しながら推測するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の時にご家族様から生活歴をお聞きしサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を通じて情報共有し入居者様に寄り添い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様からの要望を聞きケアプランに取り入れ実践している。	入居時の実態調査で把握した情報に基づき1か月の暫定ケアプランを作成している。入居後に、利用者の状況を観察してユニット会議で話し合っプランの見直しを行っている。モニタリングは、担当職員が作成した原案をもとにユニット会議で話し合っ修正を行い利用者の状態に応じて1か月・3か月又は6か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録シートや温度版、ヒヤリハットなどの記入を行い、申し送りや会議などで情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会をホームで行わずご家族様と一緒にの時間を過ごされる機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のお庭を開放して頂き桜を見させて頂き花見を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の受診が困難になったためかかりつけ医、ご家族様と相談を行い訪問診療に切り替わった。	入居時に通院先を相談し、家族対応のかかりつけ医通院と訪問診療医を選択して頂いている。家族対応の通院は口頭で状態を伝え報告を得ているが、病院の意向によりFAXで伝えることも有る。また、状態に合わせ訪問看護を利用し適切な医療支援をし、通院状況を病院診断・処方記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に相談を行いアドバイスを受けている。また、主治医からの指示で訪問看護師の処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ご家族様、ホームと早期に退院できるように今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に重度化対応、終末期ケア対応にてご家族様に確認を取っている。また早い段階から主治医、ご家族様と話し合い看取りについて話し合いを行っている。	入居時に指針を説明し同意を頂いて、その後折に触れ家族と話し合いをし意向を確認している。終末期は主治医から家族・管理者同席で説明を受け、家族の意向に沿った支援をしている。職員は看取りに対する意識が高く、より良い支援に繋げるよう話し合いをしチームとなって取り組んでいる。また、看取り研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、訪問看護ステーションと話し合い対応の仕方をマニュアルに沿って職員間で共有し緊急連絡網にて伝達を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練は年2回行っている。地域との協力体制は築けていない。	年間計画に基づいて総合訓練を年2回実施している。コロナ禍以来消防署立ち会いや地域消防団の協力、運営推進会議委員の参加が無くなっている。非常用として米・水・缶詰・レトルト等3日分とカセットコンロ等が準備してある。	夜間は、職員体制が各ユニット1名になるので、夜間想定火災訓練を全職員が体験し、また、消防署の立ち会いや運営推進会議委員、地域住民の参加を得て地域と連携することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時は必ずカーテンを閉め羞恥心に配慮しケアを行っている。	利用者を尊敬し尊重する考えが職員に浸透しており、また、毎月15項目からなる不適ケアチェックリストを行い職員間で話し合いをし利用者を尊重しプライバシーを守る取り組みをしている。なお、毎年接遇・マナーの研修を実施し、個人情報には鍵の有るキャビネットで適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に食べたい物をお聞きしメニューに取り入れたり着替えの時にどちらがいいか選んで確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと起床したい入居者様にはその方のペースに合わせて朝ご飯をお出ししている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日会の時には着物を着て頂いたりドレスを着ていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	誕生日会の時にはおもてなし料理を提供し全員でお祝いしている。	献立は職員が利用者からの希望を聞いて1か月分を作成し、食材は近くのスーパーで調達している。利用者は出来る範囲で野菜の下処理や食器洗い拭き、テーブル拭き等を手伝っている。法人は行事を大切にしながら中でも誕生会・敬老会・クリスマス会に地域の方や家族を招待し、共に料理を楽しむ取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが悪くなった入居者様にはミキサー食にて提供し現在はお粥からご飯に変わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の状態に応じて歯磨きの声かけや義歯洗浄の介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	退院時はおむつでしたがホームに戻られてからはリハビリパンツに変更しトイレにて排泄を行っている。	トイレは、本人の訴えや定時、仕草等から誘導し、誘導時は、お部屋に行きませんか等周囲に配慮した声掛けをし、24時間オムツ使用者は数名、他の方はリハビリパンツや布パンツを使用している。オムツは家族購入や業者からのまとめ買い等自由選択にし、業者からオムツの効率の良い使用方法等をアドバイスを得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひじきや乳製品を多く取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ入浴を楽しんでいる。就寝前に入浴を希望されるかたには入浴して頂いている。	入浴は週2～3回を基本とし、毎日11時から昼までと14時から16時までに実施し、自立している方は20時以降の入浴希望に対応している。入浴を拒む方には毎日声掛けをする等工夫をし、希望者には同性介護に応じている。入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯等をして入浴を楽しむ取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも入居者様の眠気が見られるかたには声かけを行いベッドに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を名前ごとにファイリングしいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時には申し送りを行い情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会を開き好物のお食事でお祝いをしたりお天気の良い日にはドライブに出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社やお寺の好きな方やお花の好きな方など希望に添った外出を楽しんで頂いている。	天気の良い日は、周囲の散歩に出かけ、桜の花の季節には近所のお宅の枝垂桜を見に出かけている。また、ドライブで堀切邸の吊るし雛やコンベンションホールで行われた音楽祭、運動公園のバラの花見物、寺、神社等季節に合わせて出かける等、日常的に外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に関しては立替金にて買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日プレゼントが届いた時にお礼の電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように行事の物を飾っている。	ホールには、利用者と共に作成した雪だるまやバレンタインデーの作品を掲示し、台所に本日の献立が書いてある。テレビの前には大きなソファを置き、また、エアコン・加湿器・空気清浄機を設置し、1日2回窓を開けて換気している。窓からの光はロールカーテンで調整し、利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が好きなようにテーブル席やソファでひとりでくつろいだり、他入居者様とお話できるような声かけ環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みのテーブルや椅子を使用し落ち着いて過ごして頂いている。	居室には、エアコン・ベッド・クローゼットが備え付けられ、キャビネット・椅子・テレビ・CD・ぬいぐるみ・寝具等使いなれたものを持ち込み、壁には行事や誕生会の時の写真を貼ってある。利用者のADLに合わせベットの向きや椅子の置き場所を考える等安心して暮らせる部屋になるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の必要に応じて居室に手摺りが設置してある。また、共有スペースでは入居者様の状況に合わせて肘掛け椅子などを用意してある。		